

# 関東唯一の石造3連アーチ橋

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第041号
名称(型式等)	めがね橋
所在地	南房総市白浜町滝口地先
設立(竣工)年	明治21(1888)年3月

## 選定理由

南房総市白浜町の長尾川にかかる3連の石積み上路アーチ橋です。延長は28.3m、幅員4mで、3基連なるアーチは石積みアーチ工法でつくられ径間は7m、総高は中央アーチ上流側で5.4mあります。兩岸には石積みの橋台があり、橋台まで含めると延長は約34mになります。石積みは切石の布積みで、上流側の脚部には水の流れから橋を守るための水切りが設けられています。

長尾村史によると、長尾川には橋がなく徒歩で渡っていましたが、明治21(1888)年に地元の大工と石工が協力し、地元民の寄付399円40銭によりつくられたそうです。石材も橋のたもとの石は静岡県伊豆から運ばれましたが、橋本体の石は近くの海岸から切り出したものです。なお、左岸上流の袖柱には竣工時の名称「ながをばし」が刻まれています。(長尾村は現南房総市白浜町)

大正6(1917)年の長尾川の大洪水、大正12(1923)年の関東大震災にも耐えましたが、老朽化が進んだため、昭和52(1977)年と、平成5(1993)年から平成7(1995)年にかけて修理が行われ、現在は自動車の通行は禁止されています。

意匠的にも優れ、また、明治21(1888)年竣工当時の規模・形式をよく維持しており、県内でも数少ない石造橋りょうとして平成元(1989)年に千葉県指定有形文化財(建造物)に指定され、平成17(2005)年度には土木学会選奨土木遺産にも認定されています。

関東唯一の3連めがね橋であるとともに、地元の人々の寄付により工費を調達するなど、地域の歴史とも深く結びついた橋です。



写真：めがね橋全景（下流側より）

協力：南房総市